

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

※野外施設の情報は、ホームページでも紹介しています。

野外施設自然情報

自然環境保全センター 生き物

検索

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察する場の自然観察園（昭和57年オープン）と、樹木一つ一つをじっくり観察する場の樹木観察園とがあります。樹木観察園は約50年前（旧林業試験場時代）に整備されました。野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、植物や野鳥、虫たちの興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を掲載しています。

<気になる生き物>

●クモ

この秋は園内で様々なクモが目につきました。特にいつもより多いと感じたのがジョロウグモです。今年の夏は暑さでエサとなる虫が多かったことと、天敵である野鳥の数が非常に少なかったためではないかと考えられます。あちこちに金色の糸の大きな巣が張られていました。捕まえた虫やその食べかすがたくさんついている巣が多く、メスのクモも立派なお腹に成長していました。ちなみに、巣にはメスと交尾するために小さなオスがやってきます。しかし、うっかりするとメスに食べられてしまうので、注意深くチャンスをうかがっているようです。



ジョロウグモの巣の中は…



オオトリノフンダマシ

9月中旬に沢沿いのキブシやミズキの枝（Y28付近）に産卵したのはオオトリノフンダマシです。紡錘形の卵のうが枝からぶら下がり、近くには親と思われるメスのクモが数日とどまっていました。昨年もほぼ同じ場所に産卵されていたので人気の場所のようです。オオトリノフンダマシはお腹の目玉のような模様が特徴です。ツヤがあり鳥の糞に擬態していることが名前の由来です。

コガタコガネグモはしま模様が美しいクモ。巣にX字状の白い帯をつけるのが特徴ですが、この個体は斜めに一本だけでした。

さらに10月27日には、オレンジ色に黒い斑点がある派手なクモ、ツシマトリノフンダマシが見つかりました。大きさや模様から、じっとしているとテントウムシのようです。関東地方以南に分布するクモで県内では横浜市や大磯町で採集された記録がありますが、非常に珍しいクモで、オスはまだ見つかっていません。観察園入口の門（M1付近）で3日間見られました。



コガタコガネグモ



ツシマトリノフンダマシ(メス)

●ヤマガラの食事

8月下旬にヤマガラが盛んにまだ若いエゴノキのタネを食べていました。ヤマガラの大好物で、器用に足で押さえて実からタネを取り出します。ヤマガラはエサを地面や木の割れ目などに隠す貯食の習性があり種子散布者の役割をしますが、果肉を剥がすことで発芽率もアップするのだそうです。



収穫♪



へたをとって…



果肉をはがし…



ドヤ！

タネを取り出す

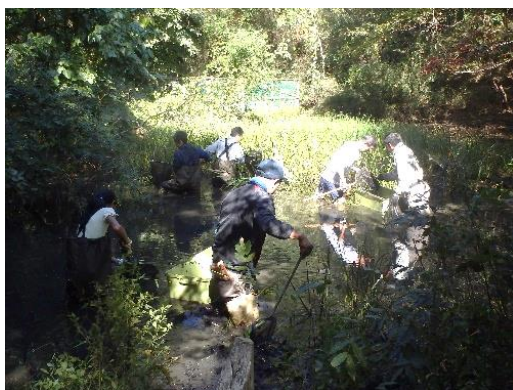
<最近の話題>

●ザリガニバスターズ・外来種駆除の結果報告

今年度のザリガニバスターズは、延べ1,331名の参加により、4,580匹のアメリカザリガニを捕獲しました。

10月21日には丹沢大山ボランティアネットワーク主催の「池の外来種駆除と生き物観察」が行われ、外来種はアメリカザリガニ154匹、ブルーギル27匹が捕獲されました。参加者は最初にザリガニの生態や影響についてレクチャーを受け、そのあと実際に観察園の池に入り、泥だらけになりながら一生懸命生き物を捕獲作業を行いました。泥が深く動きづらいこと、外来種駆除の難しさなどに驚いていた様子でした。

捕獲した外来種は傷病鳥獣のエサに利用しました。ザリガニもブルーギルも小さなものが多く、ブルーギルはほとんどが体長4cm程度の稚魚だったので、ここで繁殖していることが分かります。在来種はメダカやモツゴ、ヨシノボリ、ヌカエビが多くとれました。また、水生昆虫が好きな小学生や中学生の参加者がコオイムシやヒメゲンゴロウ、ミズカマキリなどを判別してくれて、みんなでいろいろな生き物を観察することができました。



採集の様子。何がとれたかな？



コオイムシ



ヒメゲンゴロウ



アメリカザリガニ



ブルーギルの稚魚

●台風24号の爪痕

強い勢力で関東地方を襲った10月1日の台風24号により、センターの南側に位置する樹木観察園ではイチョウやマツ、イイギリなどの多くの大木が折れてしまいました。



折れたストロームマツ(E20付近)

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報は、ホームページで見られます

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた、傷ついたり弱ったりした県内の野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

<平成30年7月～9月の受け入れ実績報告>

受付件数の多かった上位種			主な救護原因			
1位	ツバメ	20 件	<鳥 類>		<哺乳類>	
			ガラス窓などへの衝突	21 件	疥癬症(かいせんしょう)	2 件
2位	キジバト	8 件	誤認保護	10 件	交通事故	1 件
3位	スズメ	7 件	ネコなどに襲われる	5 件		
4位	ヒヨドリ	6 件	釣り糸(針)や防鳥ネットなどに絡む	2 件		
5位	トビ	4 件	悪天候(台風)など	9 件		
	アブラコウモリ	4 件	交通事故	2 件		

<平成30年6月～9月の活動報告>

6/2、3 平成30年度 野生動物救護ボランティア講習会 48名受講 ※1※2
6/9～8/31 平成30年度 野生動物救護ボランティア講習会受講生の自主研修を随時受け入れ
8/11 第8回 夏休み子供体験教室 『野生を学ぶ』 24名参加（保護者含む）※2
9/30 平成30年度 野生動物救護ボランティア修了式 35名新規登録 ※1※2
9/30 平成30年度 野生動物救護ボランティア研修会
長期・短期飼養ボランティアについて 35名参加

共催：※1公益社団法人 神奈川県獣医師会 ※2特定非営利活動法人 野生動物救護の会

ボランティア活動の紹介 Vol.1

野生動物救護ボランティアの日々の活躍をボランティア歴3年のSさんに伺いました。

Q: ボランティアになったきっかけは？

A: サルのこどもを保護して持ち込んだ時、魅力的な職員に出会いボランティアになりました。

Q: 右上の写真は、何をしているところですか？

A: 床用のヒーターを修理しているところです。

Q: 右下の写真のコタツ型ヒーターもSさんの考案ですが、どうして作ろうと思ったのですか？

A: 湯タンポだと夜には冷えてしまうので、タヌキがかじっても大丈夫なヒーターを考えました。

Q: 作製する時に心がけているところはありますか？

A: タヌキが一晩中かじっても壊れず、タヌキがケガをしないように角を丸くすること。そして、水洗いできる防水構造にすることを心がけています。

Q: ヒーターを使用しているところをみてどう思いますか？

A: 思わず目じりが下がります。

Q: 好きな野生動物は？

A: タヌキとムササビです。



お話、どうもありがとうございました。

Sさんのおかげで、夏は小鳥のヒナ、冬はタヌキなどたくさんの命を助ける大切なヒーターになりました。

次のページにこのヒーターが登場します。よく見てね！ ➡

救護原因
上位！

かいせんしょう タヌキの疥癬症

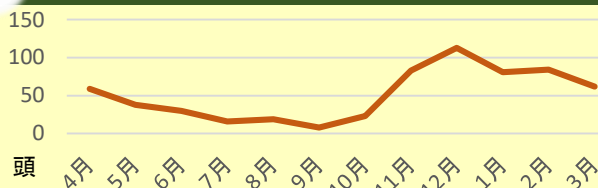


冬支度に忙しいタヌキたち。脂肪をたくわえてボデッとした体つきとフサフサした冬毛は、皆さんがイメージするタヌキの姿ではないでしょうか。しかし、当センターには、冬支度ができないタヌキが持ち込まれます。ここでは、疥癬症(かいせんしょう)にかかったタヌキについて紹介します。

疥癬症って？

ヒゼンダニという、肉眼では見えない小さなダニが皮膚の中に入って卵を産み増えることにより、激しいかゆみをともしなう皮膚の病気です。触るとイヌやネコなど他の動物にも感染することから、野良ネコなどへの餌づけの場所は、特にうつりやすい場所といえます。人間にも一時的に感染することがあります。

持ち込みの多い時期は？



※1979年～2017年合計 神奈川県自然環境保全センターデータより

保護した後は？



毛が抜けて厚いカサブタができています。体温計で測れない程の低体温になることもあり、ヒーターで温め、脱水改善の点滴をします。



薬でダニが死にカサブタがはがれ落ちて、キレイな地肌が見えてきます。



フサフサまで
もうひといき

毛が生えるのを待って放野します。受入れから放野まで長くて約7カ月かかったこともあります。

2017年度 疥癬症で持ち込まれたタヌキたち



放野した タヌキ

※下の数字は受入れ番号

みんな顔が
違います

死亡した タヌキたち



種名：タヌキ
学名：*Nyctereutes procyonoides*
分類：イヌ科
漢字名：狸
頭胴長：約60cm 尾長：約17cm 体重：3～5kg前後

里のケモノという漢字名の通り、住宅地周辺でも生活しています。木の実や昆虫、カエルなど何でも食べる雑食性で、さらに死んだ動物も食べる掃除屋でもあります。右上の写真は、いわゆる共同トイレの『ためふん場』で、複数あります。消化できない動物の毛やイチョウなどのタネがそのまま見えることから、食性が分かります。ここから芽が出ることで、タネを運ぶ種子散布の役割もあります。しかし、なんでも食べる習性が災いして、人間が出したゴミを食べて胃に詰まらせてしまい、死ぬこともあります。

